

《教育長メッセージ 第5号》

『本』

私は、子どもの頃、本の好きな子ではありませんでした。少年マガジンや少年サンデーといった週刊マンガはよく読みましたが。

小学校3年生の頃だったと思います。

私は「志津川愛鳥会」という野鳥の会に入っていました。その会には、木造の2階建ての建物があり、その書棚に、野鳥の図鑑といっしょに、何冊かの古ぼけた「シートン動物記」が並んでいました。

私の目を引いたのは、表紙に描かれた一匹のオオカミの絵です。それは「オオカミ王ロボ」の姿でした。そして、ロボに引き込まれて、並んでいた5、6冊の動物記をあっという間に読み終えました。

高校に入ってから、ヘルマンヘッセに夢中になり、ほとんどの作品を読みあさりました。その中でも、短編集「メルヒェン」が好きで、あの頃は、いつもカバンの中に入れて持ち歩いていました。

私は、すべての子どもたちに、読書家になってほしいとは望みませんが、自分の好きな本の一冊に出会ってほしい、見つけてほしいと思っています。子どもたちの心の栄養になるような素敵な本に。

今、私のバックの中には、似合わないけれど、ボロボロになった「中原中也の恋の歌」というミニ文庫が入っています。これは、43歳の時にリフレッシュ休暇を取って、山口市湯田温泉にある中原中也記念館に行った時に買ったものです。

疲れたときなどに、ページをめくって、心の栄養にしています。

みなさんは、どんな本が好きなのでしょうか。

どんな本を読むと心がまるやかになるのでしょうか。

子どもたちと本との出会いを演出することが、私の大事な仕事だと思っているところです。

次回は、『先生』について、私が思うことを書いてみたいと思います。

